

大学では地学を教え 家では子どもの遊び道具 それが私の存在理由



常盤 哲也 *Tokiwa Tetsuya*

学術研究院理学系 助教 (テニユア・トラック)
(理学部 理学科 地球学コース 地層科学分野 助教 (テニユアトラック))

宮崎県生まれ。和歌山大学教育学部卒業、同大学大学院修士課程修了。2007年名古屋大学大学院環境学研究所単位取得満期退学後、国立研究開発法人日本原子力研究開発機構に所属。2014年より現職。

【学生へのメッセージ】

みなさん、目標を持っていますか？ になりたい職業、になりたい人物像など、様々なものがあると思います。目標を持っている人はそのまま突き進めば良いと思いますが、目標を持っていない人も多くいると思います。目標を持っている人は、持っていない人にとって、とても眩しく映ると思います。

私が学生の時は特に目標もなく漠然と過ごしていました。この時間は一見無駄に思えるかもしれませんが、決して無駄ではないと思います。「無駄な時間を過ごしたからもう少し頑張ろう」という気持ちが生まれるかもしれません。つまり、一見無駄と思える時間も原動力になり得ると思います。みなさんは大きな可能性を秘めており、今後のご活躍を祈っています。



野外調査の様子。ひたすら歩いて岩石を観察します。



野外調査では一番の楽しみが食事です。山で食べるごはんはとにかくうまい！



毎週週末にはおもちゃが目当てで要望されるハンバーガー。私はもうあまり食べたくない。

File
7

ダラダラ過ごした時間も 無駄ではなかった

学生のころは、目標もなく、やりたいことも特になかったので、ダラダラと無駄な時間過ごしていました。特に大学生の時は、大学をぶらぶらして、帰りに古着屋に行ったり、駅前であまくもないギターを弾いたり、今では考えられないくらい本当にダラダラ過ごしていました。大学院にも何となく入っただけで、相変わらずダラダラ過ごしていましたが、卒論から取り組んでいた地質学が「嫌いではない」から「結構おもしろい」と徐々に変わっていき、そこから地質学に取り組みだして、博士課程に進学し現在に至ります。この時は「無駄な時間を過ごしたからもう少し頑張ろう」というのが原動力になりました。無駄な時間も無駄ではないと思うようになりました。

地質学は 実は身近なもの

日本列島には海洋プレートの沈み込みによって付加された「付加体」と呼ばれる地層が存在しています。私の研究はこの付加体がどのように形成されたのかを明らかにすることで、日本列島の形成過程の一部を解明することです。

研究の方法は、野外において、地層の連続性や断層・しゅう曲といった岩石に認められる変形を観察することです。調査が進むにつれて、地層がどのようにつくられていったのかが徐々にひも解かれること、つまり分からなかったことが分かっていくことに面白さを感じています。日々の授業では、地質学を教えます。地質学はみなさんの生活には身近なものと思わないかもしれませんが、しかし、地滑りや地震といった災害の対策、そして道路や建物をつくる際には、その地盤の情報が必要で、その情報を得るためには地質学の知識が必要です。地質学は実はみなさんにとって身近なものです。

妻の一人の時間を作る ことがミッションです

私には小学校と幼稚園に入ったばかりの息子が2人おり、元気盛りで私を遊び道具のように認識しています。ですので、早く帰らないと息子たちに怒られます。そこで私は、夜型生活を朝型生活に改め、午後7時の夕食に間に合うように帰っています。もちろん帰宅後は、息子たちの遊び道具として使われています。平日はほとんど妻が子どもたちの相手をしていますので、平日の妻の一人の

時間がほとんどありません。そのため、休日は妻の一人の時間を作るのが私のミッションであり、平日よりも息子らの遊び道具として使われ、公園に連れて行ったり、ごはんを連れて行ったりと、忙しい時間を過ごしています。ストレス解消にもなりますが、仕事より疲れることの方が多いかもしれません。しかし、私の存在理由の一つですので、真摯に受け止め、相手させてもらっています。

●● 仕事の相棒!

三種の神器



ハンマー(左)、コンパス(右上)、フィールドノート(右下)。ハンマーでたいて岩石の種類を特定し、コンパスで岩石や断層などの連続性を測ります。そしてそれらをノートに記入しデータとして記録します。この3つがないと調査にはならないので、調査の三種の神器ともいえます。